

2018

# 冬期募金に ご協力ください



わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

——ヨハネによる福音書 13章34節



JOCSは赤ちゃんの健やかな成長を支える活動をしています(タンザニア)

  
JOCS

医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人  
日本キリスト教海外医療協力会  
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE



シスター クリスチナ・マプンダ [タンザニア(ダボラ州) ンダラ病院・医師]

## 祈りとともに、安全な出産と赤ちゃんの健康のための活動に取り組んでいきます

**私**は小さいころから、シスターになり神様に仕えたいと考えていました。幸いにもシスターの道が与えられ、修道会が運営するンダラ病院で、シーツの交換や受付、書類整理などの仕事をするようになりました。その中で、病気で苦しんでいる人々を目の当たりにし、この人たちの助けになりたいと思うようになりました。でもそのときの私には、患者さんとその家族のためにただ祈ることしかできませんでした。病気で苦しむ人々のためにもっとできることはないかと、いつも神様に祈っていたところ、病院の事務責任者から、JOCSの奨学金に応募し、大学に進学して医師になることを勧められました。

JOCSの支援者の皆様のおかげで、医師になることができました。産科手術の技術を身に付けられたことが、日々の診療にとっても役立っています。逆子の場合や赤ちゃんが産道に対して大きすぎる場合、赤ちゃんはうまく出てこられません。へその緒が先に産道

に出てしまった場合には、赤ちゃんの頭と産道の間でへその緒が締め付けられて血流が止まり、赤ちゃんはとても危険な状態になります。このようなときには帝王切開が必要で、それによってお母さんと赤ちゃんの命を助けることができます。これからも産科手術の技術を向上させたいと思っています。

先月、十数キロ離れた村からある妊婦が自転車で運ばれてきました。彼女にとって2度目の出産でした。

1度目の出産では、彼女の親戚や周りの人がそうであったように、彼女も自宅で出産しました。しかし、残念ながら赤ちゃんは死産でした。その後も出血が続いたため彼女はこの病院に運ばれ、私が処置をしました。初めての子どもを亡くした彼女の悲しみはとても深く、彼女の処置をしているとき、「なぜ、私の赤ちゃんは死んでしまったの」と私は問われました。私は彼女と亡くなった赤ちゃんのために祈りました。そして彼女をそばにひき寄せて、病院で出産す

ることや妊婦健診を受けることの大切さについて話しました。タボラの多くの女性たちのように、彼女の母親や周りの人もそうしてきたため、彼女は自宅で出産することが当然だと思っていたのです。タンザニアでは妊婦健診は4回以上受けるよう推奨されていますが、彼女は1回しか受けていませんでした。

退院後しばらくして、彼女は2度目の妊娠をしました。私の話を覚えてくれた彼女は、この病院で妊婦健診を受け、健診前の健康教室にも参加し、この病院で出産することを選んでくれました。2度目の出産で彼女は無事に男の子を出産し、翌日退院していきました。男の子はダニエルと名付けられました。

彼女が暮らす村からこの病院までそう遠くなかったので、彼女が健診に来ることや病院での出産を選べたことは幸いでした。しかし、タボラの多くの人たちにとって、健診や出産のために病院に来る費用を準備するのは簡単なことではありません。病院に来たくてもお金がなくて来られない人が多いことを、私はとてももどかしく思います。

私にはすべての問題を解決することはできませんが、仕える心を持って患者さんの前にありつづけたと思っています。新しい命の誕生に立ち会うとき、

いつも大きな感動と神様の愛を強く感じます。産まれてくる赤ちゃんは皆、光り輝き、私たちが皆、神様の祝福を受けて生まれてきたことを思い起こさせてくれます。医師として地域の人たち、特に女性と赤ちゃんのためにこれからも祈り、奉仕していきたいと思えます。

この地で、私たち医療従事者にできることはたくさんあります。たとえば、病院での出産を勧めること、その重要性を伝えること。妊娠高血圧による帝王切開が多いため、妊娠中の健康管理や、妊婦健診を継続して受ける大切さを広めること。また、貧血のひどい妊婦が多いため、その栄養状態を改善すること。たくさんの方が必要とされています。私たち医療従事者自身も、妊娠や出産に関する知識と処置の技術を向上させていかなければなりません。JOCSやタボラ大司教区保健事務所、JOCSの奨学金で研修を受けた看護・助産師とともに、安全な出産と赤ちゃんの健康のための活動に取り組んでいきたいと思っています。

どうぞ私たちのこれからの働きを見守り、お支えください。



JOCSは2018年4月から、タンザニアのタボラ州でお母さんと赤ちゃんの命と健康をまもるための活動を始めました。タボラ州は、タンザニアの中でも特に妊娠や出産で命を落とすお母さんが多い地域です。その状況を少しでも変えたいと、これまでに多くの奨学生が医師や看護・助産師になるための研修を受けました。JOCSは、そのような志をもつ元奨学生とともに活動していきます。

新しいワーカーが派遣され、この活動に加わります。どうぞお支えください。

雨宮春子(助産師)  
札幌聖ミカエル教会





日本から送られた機材でレントゲン撮影をおこなう岩村昇医師

日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）は、日本がアジアの人々に対して犯した戦争への深い反省に立ち、和解と平和の実現を願って1960年に設立されました。JOCSが1962年からネパールに派遣した岩村昇医師は、約20年にわたって結核など感染症の治療・予防に携わり、現地の公衆衛生の向上に大きく貢献しました。



JOCSの活動は、与えるだけではなく、長期的に、その地域の人々が自らの手で活動を継続していくことを目指して、大切なことだと思います。（30代・A・Oさん）

お金や箱ものの支援ではなく、本来人間はどんなことをすべきかという理念をもって活動しているので、JOCSを応援しています。（80代・H・Mさん）

## ご寄付の方法

### 郵便振替

#### ゆうちょ銀行

口座：日本キリスト教海外医療協力会 募金部 00170-3-13986

### 銀行振込

#### 三井住友銀行 高田馬場支店 日本キリスト教海外医療協力会

口座番号：普通 4186361

\* お名前とご連絡先を東京事務局までお知らせください。

### 口座振替

#### 月々1,000円から。

申込書が必要になります。東京事務局へお申し出ください。またはJOCSホームページ（<http://www.jocs.or.jp/support/bokin>）からダウンロードしてください。

### クレジットカード

#### 月々500円から。

ホームページ（<http://www.jocs.or.jp/support/bokin>）からお申し込みください。

🌿 当会へのご寄付・一般会員の会費は、特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。🌿

🌿 遺産のご寄付に関するパンフレットがございます。ご希望の方は、東京事務局までご連絡ください。🌿

\* 当会へのご寄付・会費は8割が事業費、2割が管理費として使われます。

**個人情報の取り扱いについて** 当会は、皆様の個人情報を厳重に管理・保護するとともに、その取扱いにつきまして「個人情報の保護に関する法律」及び関連する法令その他の規範を遵守し、プライバシーの保護を行っています。詳しくはJOCSホームページの「個人情報の取り扱いについて」（<http://www.jocs.or.jp/privacy>）をご覧ください。

<b>JOCS役員</b>	会 長	畑野研太郎（医師）
	常務理事	大友宣（医師）
	理 事	小宅泰郎（医師） 久保礼子（言語聴覚士） 土居弘幸（医師、大学教員） 名取智子（JOCS事務局次長） 榛木恵子（団体役員） 東岡牧（看護師） 森田隆（JOCS事務局長） 柳澤理子（保健師、大学教員）
	監 事	倉辻忠俊（医師） 渡部芳彦（歯科医師、大学教員）

## 公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

ホームページ <http://www.jocs.or.jp> E-mail [info@jocs.or.jp](mailto:info@jocs.or.jp)

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-51 電話：03-3208-2416 FAX:03-3232-6922

関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階 電話：06-6359-7277 FAX:06-6359-7278

## ご入会のご案内

ぜひ会員としてお支えください。

### 会員種別

#### 一般 会員

JOCSの活動を支える会員。総会の議決権や理事の選挙権、被選挙権はありません。

#### 社員 会員

JOCSを構成する会員。総会の議決権、また理事の選挙権及び被選挙権をもちます。

会員になると、会報誌『みんなで生きる』（隔月発行）をお届けするほか、活動報告会・イベントなどをご案内します。

### 入会方法

同封の払込票の「一般会員になります」または「社員会員になります」に☑を記入ください。